

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>全職員で話し合い、入居者が家庭的な環境の中で、個人の尊厳が守られ、安心して暮らせるような理念になっている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>施設全体の理念をホールに掲示し、それをもとにグループホームの理念がつかれ、職員室や各ユニットに掲示し、管理者と職員はその理念に基づいて利用者に接している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族はもとより、地域の人々にもいろいろ機会あるごとに理解してもらえよう取り組みをしている。広報を作成し配布することで入居者の生活状況がわかように取り組んでいる。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>住宅地より離れていて、住民に立ち寄ってもらえるような事は難しい面もありませんが、学校行事や町の行事に積極的に参加し、地元の人々と交流するように努めている。地域ボランティアの受け入れもある。通所サービス、特養施設にも自由に出向き、交流の場を持つよう心がけている。地域の理美容院や商店の利用もある。今年より、地域参加による避難訓練も実施。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者が混乱をしないように、異動は最小限に抑えている。他部署の職員とは普段から行き来し、顔見知りである場合が多く、異動があっても、馴染みやすい環境づくりが出来ている。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内の研修委員会を設置し、外部研修や内部研修に参加する機会を計画し、レベルに応じてそれぞれ参加させている。また、資格取得に向けての取り組みもあり、職員教員に力を入れている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年度より町の地域密着型サービス事業所意見交換会を立ち上げ、二ヶ月に一回集まり互いの体験や情報交換をしている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は日頃より職員の言動や行動の把握に努め、何でも話せる環境づくりをしている。年に一度自己申告書の中に、自分の思いや感じた事を記入し提出している。又施設内の親睦会による様々な行事が定期的に行われている。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課を取り入れ、努力したのものにはそれへの報奨と、そうでないものには新たな指導を行い、職員が向上心を持つよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>施設の利用希望者、家族と面談し、それぞれが抱えている問題、要望を聞いている。又、施設の詳しい説明を行い、利用者の不安を取り除くよう努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族はもとより、担当ケアマネジャーからも情報を収集し、何を必要としているか、利用者の不安や現在の状況を見極め、利用者が一番合ったサービスを行うようにしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して生活していただける様に、本人・家族とも相談し地域密着サービスの利点を活かし、町内の方や顔見知りの方とのかかわりを多く持てるようにしたり、併設であるデイサービスやホームに自由に行き来できる環境を作っている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒にたたみ物や裁縫、手芸、食事作り、畑仕事など、人生の大先輩から知恵を拝聴しながら共に支え合う関係を築いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に施設行事の参加を促し一緒に過ごす時間を持ち、思い出作りをしていただいている。入居者の受診や散髪などにも可能な時は同行してもらえるように、事前に家族にお願いし家族と断ち切らない関わりを持っている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設に入所しても家族との関係を断ち切らない様に、電話や手紙等を通じて面会の回数を多くするようお願いしている。家族が自由に泊まれるようなスペースもあり、面会時に食事を提供しゆっくり過ごしていただく配慮もしている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の希望に出来るだけ合わせ、散髪や地域の商店の利用を柔軟に対応している。デイサービスやホームの利用者との関わりも多く持つ事が出来ている。町内や学校の行事にも出向き、自宅での生活と重なる事が多く持てるように努めている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の場である事を説明・理解してもらい、入居者全員の特性を考慮し支え合えるように努めている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホーム退所者の多くは、併設の特養ホームへの入所をされる為、継続した関わりが保たれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の暮らしを考慮し、職員間で希望や意向の把握に努めている。入居者と職員が話し合う機会を月に一度開き、要望を聞き入れ、今後の予定に入れている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所する段階で生活歴や暮らし方を聞き、家族や本人から情報を得て、職員が把握できるように、アセスメントに記載し統一したケアが出来るように努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりのかかわりの中で、それぞれの日常生活の過ごし方、心身状態の変化を観察し記録している。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月一回処遇会議を開催し、プラン内容の確認や必要なケアが統一されて提供されているか確認し、家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>通常は6ヶ月毎のプラン更新としているが、退院時や状態変化があった際は見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35</p> <p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランに対する当施設独自の評価表を作成し、毎日実施しているかチェックしている。また、日報の活動欄や個人記録にも記載し職員がすぐ確認できる工夫もしている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36</p> <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設するデイサービスや特養へ自由に行き来し、また入浴や食事也希望があればそちらで行っている。デイサービス利用していた方がグループホームへ入所し、グループホームを退所した方が特養へ入所される方が多く、混乱が生じない様に前段階で馴染んでもらえる様に努めている。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37</p> <p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>徘徊等問題が生じた際、警察や消防の協力を得られる様になっている。地域参加による火災訓練や町の文化祭、学校行事の参加もしている。</p>		
<p>38</p> <p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>在宅生活で担当していたケアマネジャーが時々訪れ、接する機会がある。地域包括支援センター主催による町の各事業所の勉強会や、町の地域密着サービス事業所の情報交換会に参加している。</p>		
<p>39</p> <p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センター主催による町内介護事業所職員に対する権利擁護や精神疾患、リスクマネジメント等に関する勉強会に参加しスキルアップに繋がっている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所する前に利用していたかかりつけ医を入所後もそのまま利用している。本人、家族の希望に合わせ、精神科受診や眼科受診、泌尿器科受診や歯科受診も受けている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診時に直接施設での状況をかかりつけ医に相談しアドバイスもらったり、定期的に精神科受診を受けている方もいる。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	緊急時はもちろん、バイタル異常や宿便者、体調不調の方、皮膚のトラブルがある方等は、毎日専用紙にチェックし、看護師に直接来てもらいアドバイスや処置を受けている。医務主催による勉強会にも参加している。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は管理者又は居室担当が主となり病院を訪れている。病院ワーカーや看護師を通してやりとりがあり、情報交換している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所契約時、家族には説明しているが、基本的にはグループホームから併設の特養に移り終末を迎えてもらう方針である。レベル低下した際や現病歴によっては、家族にその旨を説明し、かかりつけ医と共に話し合い、全員で情報を共有している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の家族は状態が重度化した場合、併設の特養への入所を希望しており、基本的にはグループホームから特養に移動し終末を迎える方針で日々の介護を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46 住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退所者は死亡以外大部分が併設の特養への入所者であり、グループホームから特養へ移る際も普段から行き来している為、ダメージを最小限に留める事が出来ている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>研修委員会や身体拘束委員会等が中心になって接遇や、言葉遣いについて指導し注意を払っている。個人のプライバシーについても保護につとめ、細心の注意を払っている。</p>		
<p>48 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者会議を開催し要望や暮らしについての検討点を職員と入居者がゆっくり向き合い話し合いをしている。話し合った事をもとに今後の計画を立てている。入居者と職員と交換日記のやり取りもある。</p>		
<p>49 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>併設する特養には出来ないグループホームならではの特色を活かし、入居者のその時の思いを受け止め、できる限り希望に沿った対応ができる様にと職員にもよく指導し、柔軟な対応を心がけている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人や家族の意向で希望があれば地域の美容院に行ったり職員が散髪を行う時もある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立のメニューにはとらわれず、入居者の希望を取り入れておかずの提供や合わせた調理をしている。又、毎食パン食の方、ご飯の硬さも好みに合わせ、食べやすい様に支援している。準備や片付けも出来る限り一緒に行っている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望者にはお酒や珍味を出し、また飲み物やおやつも一人ひとりの嗜好に合わせて準備しその都度選択してもらっている。乳製品の宅配を受けている方もいる。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの状態や排泄パターンを把握し、声掛けや誘導をしている。おむつ外しについては定時話し合い、外す方向に繋げる様にしている。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	羞恥心への配慮しとして同姓介護をしている。入浴の曜日は特に定めず、希望に合わせて実施している。デイサービスの利用者と一緒に入浴したり、月に3回程は温泉の日として特養の大浴をグループホームみんなで利用している。地域の公衆浴場の利用もある。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の意思を尊重し、一人で過ごしたい時や休みたい時は好きな様に過ごしていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や畑作り、料理等、個々の特技や趣味に合わせて、生活の中に役割や楽しみごととして取り入れ、職員と一緒に楽しみながら行っている。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や本人から手元に小遣いを持たせたいという希望を持っている方もおり、自己管理出来る方には少額のお金を管理してもらっており、外出時の買い物も自分で購入している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホーム内に閉じこもらず併設施設に自由に行き来し、デイサービスやショートステイ、特養の方との交流がある。また庭や畑にでて園外散歩したり、買い物や散髪等の急な要望にも出来るだけ、早い対応が出来る様に努めている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見やねぶた見学、ドライブ等、季節に応じて支援している。その他相撲観戦や、蘭祭り等、入居者の要望に合わせた外出もしている。家族へも声掛けし外出の同行を促している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に出来るようにしており、自分でできない人には代わりに電話をかけたり、手紙の代筆をし手助けしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の馴染みの人たちにゆったりと過ごしていただくために、時折食事を提供している。また、談話をしたり宿泊できる部も確保している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で委員会を設け、身体拘束をしない為の取り組みを行っている。又マニュアルも作られ部門内でも身体拘束についての勉強をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特養やデイサービスには渡り廊下から常に自由に行き来できるようにしている。グループホームの玄関については一部外に出ようとする職員がいる為手薄になる時は施錠している。		無施錠の状態にする為にどのような対応ができるか、日々検討している。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しつつ、入居者とのコミュニケーションに努め、行動を観察し、安全に配慮している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や洗剤等は施錠できる場所に管理し、裁縫道具や刃物、食料(酒)等についても出来る入居者には管理してもらい、当たり前の生活を送ってもらう様に努めている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットについての専門ノートを準備し、日常の事で危険だと感じた事を書き込んでいる。委員会で解決方法を話し合ったり、その都度現場職員からアドバイスをもらい、事故に繋がらないように事前に解決できるようにしている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	殆どの職員が上級救急講習を終了している。定期的な緊急時に対する勉強会があり、急変事故発生時に対応出来る様努めている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体で毎年複数回避難訓練を実施しており、又地域の人々の協力も得られるよう、今年度より訓練にも参加してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状態変化については、すぐ家族に報告しており、それに伴う様々なリスクについてもよく家族と話し合いをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックから始まり、食事低下、宿便、皮膚トラブル、体調不良者については、併設の看護師に専用用紙に記入し、午後に訪問し診てもらっている。緊急時は速やかな対応から早期対応をしている。		
71 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員室に薬の専用ファイルがあり、個人の服薬について、見出しをつけ見やすいようにしている。看護師による勉強会も過去に開催しており、一応の知識は体得しており間違いが発生しない様に努めている。		
72 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作成し利用者の体調や特性を把握している。下剤にはなるべく頼らず、食物繊維の食品やイージーファイバー等を提供する事で、自然排便を促している。		
73 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的には食後は歯磨き、うがいを実施し、口腔内の清潔保持や、感染予防に努めている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士が献立を作成し、栄養バランス、水分量も含め、一人ひとりの状態や好みを把握し全体的にバランスが取れるよう支援している。又、3カ月に一回、利用者の栄養管理表を管理栄養士と管理者とで作成し、会議で報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者全員、インフルエンザの予防接種やMRSA検査を年一回実施している。また、手洗い、うがいの徹底も行っている。併設の特養の看護師を中心にマニュアルを基に対応している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の鮮度の保持に努める他、ハイターやアルコール消毒液を用い衛生保持に努めている。又、調理前後の食材の保存も行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の周辺は花や植木に囲まれ、近隣にも親しみが持てる様にしている。利用者や家族にも安心して来て頂ける様、アットホームな感じに工夫している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的に安らげるようソファや畳のコーナーを置き、共有の空間を安らげる様に工夫している。観葉植物や鉢植え、切花等を飾り、季節感を感じられる様に工夫している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや通路の何ヶ所かに椅子を置いて利用者同士、いつでも寛ぎ団欒できる様にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)